

株式会社オージーフーズ

DX戦略



2026年1月13日制定 取締役決定

株式会社オージーフーズ

代表取締役社長 高橋 徹

1. DX取組宣言

日本一“お客様満足度”の高い食品通販会社を目指して。

オージーフーズは37期を迎え、今では全国500社以上の食品メーカー様、生産者様との仕入れネットワークを築き上げ、お客様に日々ご提案させていただいております。

これもひとえにお客様、従業員、仕入先、協力先皆様のおかげと心から感謝しております。

私達、オージーフーズは「**全国、世界の美味しい食品を継続してお客様にお届けする**」という理念のもと、

日本一質の高い食品通販サービスを提供できる、**日本一お客様満足度の高い食品通販会社を目指し**お客様のお役立ちをして参ります。

食品業界を取り巻く環境は、原材料、物流費、資材の高騰に加え、農産物の生産者の高齢化や自然災害の激甚化による品物不足など厳しさを増しております。また、デジタル化の進展に伴う技術革新、地球環境保全の観点からSDGs、フードロスや脱炭素への対応も必要となってきております。このような時代の変化に対応しつつ、お客様の満足度を高めるためには、取り扱う商品やサービスの付加価値を上げながらも、それを実現する作業の時間は短縮し、人が成長し続ける、強い会社でなければなりません。私達はDX、経営計画書、環境整備活動を通じて全員で切磋琢磨してまいります。

そしてオージーフーズがお客様ににとって「日本一の食品通販のプロ」と言われるよう、従業員全員が一丸となって高い目標にチャレンジして参ります。応援よろしく申し上げます。

2. 経営理念・経営ビジョン・ビジネスモデル

<経営理念>

- ・お客様に喜ばれる仕事を通じて社会に貢献し、あわせて従業員の成長と物心両面の幸福を追求します。
- ・全国、世界のおいしい食品を継続してお客様にお届けします。
- ・作り手との共存共栄を図ります。

<経営ビジョン>

IT・デジタル化を活用して組織に変革をもたらすDXを推進することにより、勘と経験で意思決定する経営からデータに基づく意思決定に変え、誰でも参加できる経営を実現します。自社のもつ物流サービス及びフードコーディネート機能を極め、日本一質の高い食品通販サービスを提供できる、日本一お客様満足度の高い食品通販会社を目指します。

<目指すべきビジネスモデル>

これまでの食品卸業に軸足を置きながら「食と人をつなげる食品サプライヤー」として培ってきたネットワークやノウハウを駆使し、新規顧客の拡大策として一般消費者向けのネット販売事業を強化します。また、他にはないオージーフーズオリジナル商品を強化することによりお客様の満足度を高めてまいります。

3. DX戦略

当社は、経営ビジョン及びビジネスモデルを実現するために、以下のDX戦略を立案し実践します。

■ **戦略①「スマート物流DX」：コスト削減・人手不足対応・品質向上（物流の強靱化）**

・ 物流コスト高騰・人手不足・品質要求の高度化に対応し、倉庫内作業のデジタル指示と実績データ化による生産性向上、返品・クレームデータの一元管理による品質改善を実現する。

■ **戦略②「提案営業AIプラットフォーム」：売上成長・営業生産性向上・離脱防止（収益力強化）**

・ 取扱い商品・食品のデータベースを活用し、過去の購買データから「次に売れる商品」をAIが予測し、顧客別の最適提案書の自動生成を行い、売上の向上を図る仕組みを構築する。

■ **戦略③「サステナビリティDX」：調達コスト削減・環境負荷低減（持続可能性×経済性）**

・ 環境負荷低減（フードロス）可視化のしくみを構築し、在庫管理の徹底管理及び包装資材の適正化による環境負荷の低減に貢献する。

4. DX戦略推進体制・デジタル人材育成

当社のDXは、社長の直下にDX推進室を置き全社的なDX計画を立案し、各部門のDXを推進します。また、委員会活動としてDX推進チームを組織し、2ヶ月に1回のDX勉強会を実施し、ツールや使い方の普及を行います。

デジタル人材の確保及び育成は、DX推進室が中心となってデジタルリテラシー教育及びデジタル専門教育の年間計画を立案し、DX推進チームと協力しながら推進します。



5. デジタル技術・環境整備

当社が利用するデジタル技術及び環境整備は以下の通りです。また、既存システムについてはDX推進室が中心となり、定期的に効果を測定し、改善を図りながら運用してまいります。また、DX戦略推進のために毎年、売り上げの0.5%投資します。

デジタル技術	取組内容	期限	担当部門
■ 既存システム	<ul style="list-style-type: none"> ・ WMS（クラウド物流管理システム） ・ kinetone ・ Google workspace ・ ネクストライン（受発注システム） ・ chat work ・ RPA（ロボパット） ・ SKY SEA ・ オージーフーズAI 	2028年までに定期的に見直しを実施する。	DX推進室
受発注システム	ルッカースタジオを含めた他システムとの連携	2026年までに	DX推進室を中心にサポート部と連携し、今後も改善を進めていく。
■ 新規導入システム			
セキュリティソフト	・ セキュリティソフト	2026年までに選定し、導入を完了する。	DX推進室

6. 数値目標 (KPI)

当社は、DX戦略を推進するために以下の目標値を設定し、DX推進室を中心にPDCAを回しながら、会社全体で取り組んでまいります。

区分 (ビジネスモデル)	取組内容	期限	目標値
戦略①スマート物流DX	倉庫内作業の生産性向上、返品データの一元管理を実施する。	2027年まで	クレーム件数を50%削減 (2025年基準)
戦略②提案営業AIプラットフォーム	取扱い商品・食品のデータベースを活用し、顧客別の最適提案書の自動生成を行い、売上向上の仕組みを構築する。	2027年まで	提案件数を20%向上 (2025年基準)
戦略③サステナビリティDX	環境負荷低減 (フードロス) 可視化のしくみを構築し、食品ロス及び持続的な食料システムに貢献する。	2027年まで	フードロスの可視化の仕組みを構築する。

7. 社長メッセージ

みなさんこんにちは、高橋です。

弊社ではDXを「IT・デジタル技術を活用して組織に変革を起こすこと」と捉え、数年前からDXに取り組んでまいりました。そしてこのたび、DX認定も第1回目の更新を迎えることとなりました。

創業以来、食品通販卸を生業としてまいりましたが、近年では物流、フードコーディネーター、品質管理などの周辺サービスもご提供することで、「日本一の食品通販お役立ち企業」を目指しております。

現在、食を取り巻く環境は資源高や気候変動などにより、大変厳しい状況にあります。そのような中でも、私たちはDXを通じて生産効率を高め、お客様にスピーディーに、そしてワクワク心躍る食の提案を続けることで、より一層お役立ちしてまいります。

同時に、フードロス問題にも積極的に取り組み、私たち自身の「働きがい」の向上や、従業員満足度の向上も推進してまいります。

今回、新しいDX戦略をまとめ、ホームページにも掲載いたしました。

企業は毎日、意思決定の連続です。その意思決定が「勘と経験」によるものから、近年著しく発達したAIやデータを活用したものへと進化することで、よりスピーディーで正確な判断につながり、誰もが参加できる経営へと近づいていくと考えています。

オージーフーズが創業以来大切にしてきた「現場に足を運ぶ」姿勢はこれからも変わりません。お客様や仕入先様とのコミュニケーションを大切にしながら、今後もさらにDX戦略を推進してまいります。

「食」という文化を通じて世界中に幅広い貢献を——。というスローガンを大切にしながら、お客様のニーズを的確に捉え、「安心」と「高品質」の商品を通じて、共存共栄を目指してまいります。